

平成26年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

栄養学科

平成23年度以前カリキュラム…【4年生】

平成26年度 シラバス

科目名	哲学・倫理学		担当者	村上 隆夫	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	古代ギリシャのヘレニズム文化と古代ユダヤのヘレニズム文化を源流とするヨーロッパの哲学と倫理学を近代まで概観する。							
学習目的	ヘレニズムとヘブライズムの総合としてのキリスト教とともに発展してきたヨーロッパの哲学と倫理学について基本的な知識を獲得することを目的とする。							
到達目標	現代の哲学・倫理学的問題について論じている入門的な文献を読解できるようにすることを目標とする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	地中海とその文化	古代地中海世界におけるギリシャ人の文化とユダヤ人の文化について説明する。						
第2回	ギリシャ哲学の形成	ソクラテスの生涯とその哲学・倫理学について説明する。						
第3回	ギリシャ哲学の展開 (1)	プラトンの哲学・倫理学について説明する。						
第4回	ギリシャ哲学の展開 (2)	アリストテレスの哲学・倫理学について説明する。						
第5回	キリスト教の成立 (1)	イエスの生涯とその倫理思想について説明する。						
第6回	キリスト教の成立 (2)	パウロによるキリスト教の成立について説明する。						
第7回	キリスト教神学の形成	アウグスティヌスの神学について説明する。						
第8回	キリスト教神学の展開	普遍論争について説明する。						
第9回	宗教改革の思想	ルターとカルヴァンのキリスト教思想について説明する。						
第10回	近代哲学の形成 (1)	ホッブズの哲学・倫理学について説明する。						
第11回	近代哲学の形成 (2)	デカルトの哲学・倫理学について説明する。						
第12回	啓蒙主義の哲学	シャフツベリの倫理学とヒュームの哲学・倫理学について説明する。						
第13回	カントの哲学	カントの哲学について説明する。						
第14回	カントの倫理学	カントの倫理学について説明する。						
第15回	総括と展望	これまでの講義について補論を行い、さらに討論の時間を設ける。						
教科書	使用しない。講義の際にレジュメを配布する。							
参考書	講義のなかで適宜指示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%評価とする。							
授業時間外の学習	授業後に1時間程度の資料検索を行うことが望ましい。							
履修のポイント	レジュメについてさらにノートを用いて補足してまとめることが望ましい。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	国際文化論		担当者	小島 弘一	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4 学年	曜日	
			(時間)	30時間			時限	
授業の概要	この地球上に65億の人類が生活しています。1万人以上が話す言語は約500種あります。言語が変われば、文化も変わります。文化とは、心の働きです。本講座は、ある種の旅行案内です。個人旅行で訪問した約150ヶ国の歴史と文化をVTRや写真を使用して紹介します。未知の国や、現在ではとてもうかがい知ることが出来ない国々や、食文化の歴史や、その発達までのいきさつ、青の味わいまで紹介して、文化がどの様に伝播し、どの様に变化したかを学びます。							
学習目的	国際的となっている現代、我々は多くの異文化の人々との交流が行われます。異文化を知ることで、不要な摩擦を避ける事も必要です。どの様にして人々が文化を獲得したかを学び、無用な摩擦を防げます。医療の現場にあっても、異文化を学び、患者の要望を知ることは大切です。医療と密接に関係している食文化も同様です。国際的な人間関係構築の上での最低要因である。							
学習目標	食品衛生法の精神を涵養し、プロの調理人として、又、プロの教育者としての資質を磨く事を目標にします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	文化とは	どの様にして人類は文化を獲得したか。						
第2回	4大文明と日本	文化発祥の地、エジプト・メソポタミア・インダス河・黄河文明						
第3回	エジプト	クレタ文明とミノア文明 ギリシャ神話とトロイ戦争						
第4回	サン・トリーニ	ハインリッヒ・シュリーマンの執念						
第5回	旧約聖書	パレスチナの歴史とシナイ半島						
第6回	3大宗教	ユダヤ教・キリスト教とイスラム教						
第7回	イスラム教	食文化と戒律						
第8回	ルネッサンス	メチチ家とフローレンス						
第9回	イタリー	ベネチアからシシリー島まで						
第10回	フランス	バリーが何故芸術の都と言われるのか						
第11回	イギリス	イギリス出文学が盛んになったのはなぜか						
第12回	アメリカ	サン・フランシスコからニューヨークまで						
第13回	文化人類学	人間の体系はどのようにして変化したか						
第14回	文化の獲得	ギリシャ神話に隠された謎						
第15回	総括	言葉を覚えて外国に行こう						
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%							
履修のポイント	楽しく講義に参加すること							
オフィス・アワー	登校日の午後2時まで							

平成26年度 シラバス

科目名	環境論		担当者	橋爪博幸	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
区分			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	今、この地球で問題となっている種々の環境問題を取りあげて講義する。							
学習目的	これからますますクローズアップされてくる地球環境問題について、すこしでも地球環境の現状への興味をかきたて、これから社会にでたあとでも環境に配慮した生活ができるようにする。							
到達目標	社会に出たあとまで地球環境問題に関心を持ち、さまざまな環境保全活動に積極的に参加できる人材を育てる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容						備 考
第1回	大気汚染(1)	中国から日本へ渡ってくるの大気汚染物質について知る。大気汚染の原因となる物質について理解する。						
第2回	大気汚染(2)	過去に起こった大気汚染による公害問題を知る。また、これに関連して、大気汚染についてどんな法律があるのかを見ていく。						
第3回	原子力発電所からの放射能汚染(環境被害)	2011年3月の東日本大震災では多くの人命が失われ、同時に福島原子力発電所の事故で放射能汚染が広がった。どのような環境汚染がひろがったか、その概略をみていく。						
第4回	放射能の被害について(人体への被害)	放射能や放射性物質について知り、大気、水(海)、土壌の放射能汚染、そして私たちの健康への影響について情報を整理し、同時にエネルギー問題について考える。						
第5回	地球温暖化と京都議定書	地球の温暖化のしくみを理解し、京都議定書の内容をつかむ。						
第6回	温暖化進行後の地球の予測	IPCCの報告書を読み、これからの地球でどのようなことが起こると予想されているのかをつかむ。						
第7回	生態系	生態系という概念を理解する。						
第8回	日本列島の自然環境	日本列島の自然環境について見ていく。						
第9回	廃棄物問題(1)	増え続けるゴミの問題について各自、解決策を探る。						
第10回	廃棄物問題(2)	廃棄物に関する法律にはどのような決まりがあるのか理解する。						
第11回	エネルギー問題	電気やガス、ガソリンといったエネルギー源の消費推移等を知る。電気料金の計算方法を学ぶ。						
第12回	エコロジカルフットプリント	エコロジカルフットプリントという概念を知る。同時に世界における貧困の現状、不平等や格差があることを知る。						
第13回	世界の不平等と環境破壊	貧困や不平等が、世界規模の環境破壊、生態系の喪失を招いていることを理解する。						
第14回	土壌の汚染	工業立地等における土壌汚染について見ていく。						
第15回	水質汚染	海や河川における汚れについて現状をつかむ。世界における水不足についても触れる。						
教科書	岡本博司『環境科学の基礎』第2版(東京電気大学出版局)							
参考書	必要なとき、講義中に提示する。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題の提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。							
授業時間外の学習	環境問題に関するニュースや新聞記事等を読み理解しておくことが事前学習につながる。復習として配布プリント等を熟読し、ポイントをまとめておくことを勧める。							
履修のポイント	休まず出席すること。レポート課題をかならず提出すること。							
オフィス・アワー	水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーとする。学生課または9号館3階の第10研究室に来ること。							

平成26年度 シラバス

科目名	生活とデザイン		担当者	松村誠一	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	現代社会の中で生きている私たちは、多くの優れたデザインに囲まれて生活しており、そこから大きな影響を受けています。文明や文化が開化する以前から、デザインと私たちの生活には密接な関係があり、近代になりグラフィックデザインやインダストリアルデザイン等の分野が確立されました。この授業では、私たちの生活とデザインの関係について考察していきます。 ※本授業では課題提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない。							
学習目的	日常生活の中に普通に存在している「デザイン」について、その意味や歴史、価値、可能性等を多角的に学んでいき理解を深めることを目的とする。							
到達目標	デザインの意味や価値、可能性をその歴史から考察し、デザインと人間との関係について理解を深めより良い社会生活が営まれることを目標とする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	デザインを理解するために						
第2回	デザインの歴史	イギリスの伝統と革新						
第3回	デザインの歴史	アール・ヌーヴォーの世界						
第4回	デザインの歴史	ウィーンの風土、市民生活のグラフィックデザイン						
第5回	デザインの歴史	バウハウスデザインの実験と総合						
第6回	デザインの歴史	オランダの近代運動、ロシアのユートピア						
第7回	デザインの歴史	アメリカのインダストリアルデザイン						
第8回	デザインの歴史	現代のデザイン						
第9回	デザインと人間工学	人体寸法と設計						
第10回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（座る）						
第11回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（寝る）						
第12回	デザインと人間工学	家具、設備への応用（立つ）						
第13回	デザインと人間工学	形・色・テクスチャーの心理						
第14回	デザインと人間工学	錯視効果						
第15回	デザインと人間工学	空間の心理						
教科書	使用しない。							
参考書	使用しない。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題100%評価							
授業時間外の学習	「予習内容」情報収集を行い自分の考えをまとめる。「復習内容」ノートの整理、確認を行う。							
履修のポイント	ノート提出を求める場合があり、授業態度や出席状況等も重要視する。							
オフィス・アワー	111 研究室で随時行う。							

平成26年度 シラバス

科目名	地域社会学		担当者	篠原責子	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。							
学習目的	地域社会学の歴史や課題を理解し、社会学的思考を身に付ける。							
到達目標	講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	イントロダクション	地域社会学の意義と課題						
第2回	都市社会学の系譜	都市社会学の展開						
第3回	流動型社会論	近代化論						
第4回	現代の都市社会	都市空間と人間形成						
第5回	現代の農村社会	高度経済成長と農村社会						
第6回	地域権力構造論	地域と政治						
第7回	アーバニズムとコミュニティ	町内会の変遷と課題						
第8回	アーバニズムとローカリティ	東京の都市空間						
第9回	グローバル社会	グローバル化と地域社会の変貌						
第10回	エスニック・コミュニティ	エスニック・コミュニティの形成						
第11回	社会変動と地域社会の形成	住民生活と行政						
第12回	農山村の混住化社会	現代の農村社会						
第13回	地域社会の活性化	地域の復興と観光						
第14回	コミュニティ形成の課題	新たなコミュニティの創出と地域社会						
第15回	まとめ	地域社会学の展望						
教科書	必要な資料は随時配布							
参考書	鈴木広監修 『地域社会学の現在』 (ミネルヴァ書房)							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	生命科学		担当者	小林	学科	栄養・看護(共通)	開講期	前期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1	学年	4	曜日	
			(時間)	15時間			時限	
授業の概要	<p>生をうけて死に至るまで続けられる生命の営みを科学の眼でみつめ理解する。この数十年で生命科学は飛躍的に発展し、生命の持つ高度で複雑なシステムの一部が理解されるようになった。バクテリアからヒトまでに共通して存在する生命の原理と、今日まで営々と生命が受け継がれてきた方法を知るとともに、ヒトとしての生命をよりよく生かすために最新の科学技術がどのように用いられ、今後どのような進歩が期待されるのかを考える。</p>							
学習目的	<p>ニュースで流れる生命科学の内容を理解し、現代の医療へのかかわりを理解する。生命科学という観点から、生化学をもう一度見直し、生化学の基礎も学習する。</p>							
到達目標	<p>管理栄養士国家試験では、人体と構造と機能及び疾患の成り立ちの分野に生化学は含まれる。生化学は基礎栄養学・応用栄養学などの分野の理解にも必要であり、これらの科目にも生化学の問題は含まれる。生化学I・IIを基礎に、めざましく進展する分子生物学・細胞生物学の内容も理解する。</p>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	細胞内情報伝達	ホルモン及びその関連物質						
第2回	器官の生化学	腎臓・肝臓の生化学						
第3回	器官の生化学	筋肉、脂肪組織の生化学						
第4回	器官の生化学	脳の生化学						
第5回	遺伝の生化学	遺伝子の生化学						
第6回	遺伝の生化学	遺伝子操作法						
第7回	細胞増殖の生化学	細胞増殖、死の調節						
第8回	まとめ	各臓器の生化学反応を総合的にまとめる。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	シンプル生化学 サイエンスビュー生物総合資料							
参考書	分子栄養学							
成績評価	単位認定 60 点以上 時間内のテスト・レポートにより評価							
授業時間外の学習	授業でおこなった範囲を復習する。次の授業時間で問題を解き、学習の理解度を確認する。							
履修のポイント	管理栄養士国家試験問題過去問題を中心に解き、生化学 I・II を理解すると共に、進展する分子生物学・細胞生物学を理解につなげる。理解度により補講を行い、また、シラバスを変更する。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	行動科学		担当者	徐 淑子	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	この授業では、人々が健康を守る行動を起こすときにどんな心理社会的仕組みが働いているのかについて、学びます。また、それらの知識を健康教育や患者教育にどのように応用できるのかについて、考えます。まずは、じぶん自身の行動をモデルに当てはめて考えてみることから学習を始めましょう。							
学習目的	保健行動についての知識を、保健医療の現場で生かすための、基礎をつくることを目的とします。							
到達目標	1. 「健康と病気」をめぐる行動のさまざまなすがたについて、理解を深める 2. 行動モデルを用いて、身近な健康現象を理解・説明することができるようになる 3. 健康教育・患者教育の枠組みと構成要素を理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容						備 考
第1回	保健行動の多様性 1	健康と病気にかかわるさまざまな行動を、いくつかの視点で分類しながら理解する。看護職者がとりあつかうケア範囲の広さを確認する。						
第2回	保健行動の多様性 2	生活構造論、段階的変化理論について取り上げ、保健行動がどのようにして個人の生活の中に組み込まれていくのかについて考える。						
第3回	保健行動の生起とその習慣化	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する(教育モデル、恐怖アピールモデル、保健信念モデル、保健行動シーソーモデル)。そして、社会的学習理論(自己効力感モデル)の考え方や、行動変容の過程について考える。						
第4回								
第5回	健康教育・患者教育の構成	健康教育・患者教育の目的と種類、目標設定、目的に合った教育手段の選択、ユニット・セッションの構成について、取り上げる。						
第6回	精神健康が保健行動に与える影	生活ストレス論の立場から、「なぜ、かんたんな保健行動も起こせない/続かない人があるのか」について、考える。						
第7回	行動科学的な知見の応用 1 (生活習慣指導への応用)	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、事例に学びながら理解を得る。						
第8回	行動科学的な知見の応用 2 (生活習慣指導への応用)	①認知行動療法の基本的な考え方 ②認知行動療法の考え方を援助内容にとり入れる						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	指定教科書はありません。教員が資料を配布します。							
参考書	授業中に、その都度、情報の出典を示し、書籍や文献を紹介さしあげます。							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題提出80%以上で評価							
授業時間外の学習	授業中に個別ワークにとりくんでもらいます。基本方針としては、授業内で学習に要する作業を完結できるように計画							
履修のポイント	視聴覚資料を毎回視聴します。受講者が少ない場合は対話形式で授業を進めます。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	合同臨地実習		担当者	中山優子・加固正子他	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期				
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日					
			(時間)	(45時間)			時限					
授業の概要	専攻が異なる栄養学科・看護学科の学生が互いの交流を通して連帯感を培い、チームで様々な保健・医療・福祉・地域の現場において、問題発見方学習活動を体験し、体験後全体報告会と討論会を開催する。											
学習目的	専攻の異なる学生間に相互理解や認識の共有を促進し、保健医療分野の「連携と協働」に対する理解を深める。また、チーム医療の実際を通じて、今後のチーム医療の在り方を考える。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職連携の実践に必要な多職種とのコミュニケーション能力を適用する 2. 保健医療福祉サービスのかかわる職種や役割とそれを支える制度について理解する 3. 個人・集団・地域の健康上の問題を解決するための保健医療福祉チームの連携・協働の実際を知る 4. 対象者中心の保健医療福祉サービスをチームとして提供し、専門職として連携することの必要性および重要性を理解する 5. 保健医療福祉チームの連携・協働を推進する方法と課題をあげる 											
授業計画												
回	主題	授業内容					備考					
第1回	オリエンテーション	グループ作り										
第2回	グループワーク	臨地実習にむけての事前学習										
第3回		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 詳細については、配布する「合同臨地実習要項」に記載してあります </div>										
第4回												
第5回												
第6回												
第7回												
第8回												
第9回												
第10回												
第11回							臨地実習	病院、福祉施設、保健行政機関等での臨地実習				
第12回												
第13回												
第14回	発表準備	学内合同報告会の準備、報告書作成										
第15回	学内合同報告会	実習で学んだことを全グループが発表する										
教科書	指定なし											
参考書	鷹野和美編著：チーム医療論、医歯薬出版株式会社（3年次の「チーム医療論」で使用した教科書）											
成績評価	単位認定 60 点以上 臨地実習への出席が原則											
授業時間外の学習	実習施設やグループで決めたチーム医療の特徴についての情報収集、個人に分担された事項についての整理を自主的に											
履修のポイント	グループワークと臨地実習、報告会で構成されており、実習前の学習が重要になります。また、学生同士のチームワークをいかに円滑に行うかについて、客観的に考察しながらグループワークを行うようにしましょう。											
オフィス・アワー	各グループの担当教員と相談して決定する。											

平成26年度 シラバス

科目名	臨床医学概論		担当者	影山晴秋	学科	栄養学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	管理栄養士・栄養士にとって理解しておくべき必要な疾患について、病態生理、診断方法、治療方法を中心に講義する。							
学習目的	現代の医療介護の中で栄養関係の業務は重要な位置を占めているが、これを適切に実施するために、各種疾患の病態や診断・治療法に関する知識を再度学習し、十分理解を深めることを目的とする。							
到達目標	病気の診断はどのようになされるのかを理解し、臨床検査のデータから疾患が推測できるようにする。各器官系における重要な疾患の成因、病態、診断、治療の概要を理解し、説明できるようにする。							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	診断のための検査(1)	一般的診察・身体診察・検体の種類と採取法						
第2回	診断のための検査(2)	臨床検査における基準値の設定の考え方						
第3回	診断のための検査(3)	血液学検査・生化学検査						
第4回	診断のための検査(4)	生理機能検査・免疫学検査・画像検査						
第5回	栄養・代謝系疾患(1)	糖尿病、脂質異常症、肥満、高尿酸血症						
第6回	栄養・代謝系疾患(2)	先天性代謝異常、ビタミン異常症、ミネラル異常症						
第7回	内分泌系疾患	下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎異常症						
第8回	消化管疾患	口腔疾患、上部消化管疾患、下部消化管疾患						
第9回	肝・胆・膵疾患	肝疾患、膵・胆道疾患						
第10回	循環器系疾患	心不全、動脈硬化、虚血性心疾患、高血圧、不整脈						
第11回	腎・尿路系疾患(1)	急性虚血性腎症候群、慢性腎炎症候群、腎不全						
第12回	腎・尿路系疾患(2)	慢性腎臓病、末期腎不全の治療、尿路系疾患						
第13回	神経・精神系疾患	摂食障害、認知症、変性疾患、精神疾患						
第14回	呼吸器系疾患	上気道感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺がん						
第15回	血液・造血系疾患	貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫						
教科書	臨床医学(疾病の成り立ち)・羊土社							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 期末試験で評価する。							
授業時間外の学習	一度は学習した疾患ですので、もう一度おさらいの目的をかねて予習と復習を行って下さい。							
履修のポイント	臨床栄養学や病理学につながる様に講義しますので、疾患名とその病態について、学習して下さい。							
オフィス・アワー	月曜日から木曜日までの9:00-16:00 11号館3階第10研究室							

平成26年度 シラバス

科目名	ニュートリションコーチング		担当者	澤田樹美	学科	栄養学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	栄養教育を実施するにあたり、コミュニケーション技術は必須である。本講座では、2学年時で学んだコーチングの基礎スキルと基本ステップの復習と、ロールプレイを取り入れて栄養教育のロールプレイを体験する。							
学習目的	個別栄養相談（食生活支援・栄養カウンセリング）をするうえでの基礎的なコミュニケーション技術を復習し、様々な形態の栄養相談ができるようコミュニケーションスキルの応用力を身につける。							
到達目標	1. コーチングの基本技術について復習し、理解を深める。 2. コーチングの基本技術を用いた食生活支援・栄養カウンセリングが実践できるようにする。 3. 現場で実施されている様々な形態の栄養相談（グループ及びその他）の模擬体験を通して、コミュニケーションスキルの応用力を身につける。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	本講座の概要						
第2回	コーチング技術の復習1	基本スキル（傾聴・承認）の復習1						
第3回	コーチング技術の復習2	基本スキル（質問・提案）の復習2						
第4回	コーチング技術の復習3	基本ステップの復習1						
第5回	コーチング技術の復習4	基本ステップの復習2						
第6回	タイプ別 コーチング1	対象者のタイプに合せたコミュニケーション技術1						
第7回	タイプ別 コーチング2	対象者のタイプに合せたコミュニケーション技術2						
第8回	体験学習1	カウンセリングの実践・逐語録					テープレコーダー	
第9回	体験学習2	振り返り・自己スキル評価					中間レポート	
第10回	体験学習3	特別講義・現場体験（仮）						
第11回	クイック・コーチング1	クイック・コーチングの紹介と実践						
第12回	クイック・コーチング2	ロールプレイとフィードバック						
第13回	栄養教育技法1	技法の紹介						
第14回	栄養教育技法2	技法の紹介						
第15回	まとめ	ニュートリションコーチングの振り返り					最終レポート	
教科書	プリント配布							
参考書	管理栄養士国家試験過去問							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上 中間評価40%以上							
授業時間外の学習								
履修のポイント	グループワークを主とした参加型学習のため遅刻は認めません。課題は締切厳守となります。							
オフィス・アワー	授業開始時に改めて連絡します。							

平成26年度 シラバス

科目名	地域栄養活動論実習		担当者	高橋東生 竹下登紀子	学科	栄養学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	公衆栄養活動は、地域住民の健康の維持・増進を目的として綿密なる計画を堅実に実行し、その結果を的確に評価するという行為の繰り返しである。そのためには、正確な情報の収集による問題点の把握が必須となる。特に集団あるいは個人の健康・栄養状態を把握する技術の修得、問題解決のために論理的な活動の展開力とそれを支持する法的根拠についての正しい知識が要求される。							
学習目的	本実習では、公衆栄養学実習Ⅰ（学内実習）ならびに公衆栄養学実習Ⅱ（臨地実習）で修得した内容についてさらに理解を深め、集団および個人に対する食事や栄養状態の把握などの技術の獲得、法律や条令などの正しい解釈、および集団のアセスメントを含めた活動を学習する。							
到達目標	公衆栄養学実習Ⅰ（学内実習）ならびに公衆栄養学実習Ⅱ（臨地実習）で修得した内容についてさらに理解を深める。食事摂取基準や各種栄養調査の方法についてその長所・短所について実習を行い理解を深め、地域の栄養活動に活かせるよう具体的な内容について、計画（plan）・実施（do）・評価（see）を行う。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	地域栄養活動論実習の概要	ガイダンスおよび課題の説明						
第2回	栄養調査の方法論	栄養調査の方法論及び情報収集について						
第3回	栄養調査の実践①	栄養状態の把握①：個人内変動						
第4回	栄養調査の実践②	栄養状態の把握②：個人間変動						
第5回	栄養事調査の実践③	栄養状態の把握③：季節変動						
第6回	栄養調査の実践④	栄養状態の把握③：食物摂取頻度法（FFQ）						
第7回	栄養調査の実践⑤	栄養状態の把握④：FFQとDR法（妥当性について）						
第8回	栄養調査の実践⑥	栄養状態の把握⑤：FFQとDR法（再現性について）						
第9回	地域の栄養状態①	国民健康・栄養調査の現状						
第10回	地域の栄養状態②	地域の栄養調査①（身体状況調査）						
第11回	地域の栄養状態③	地域の栄養調査②（食物摂取状況調査）						
第12回	地域の栄養状態④	地域の栄養診断について						
第13回	発表媒体の作成①	地域の食事改善について①						
第14回	発表媒体の作成②	地域の食事改善について②						
第15回	発表	地域の食事改善について③						
教科書	健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学（田中平三、伊達ちぐさ、佐々木敏 編集）：南江堂 日本人の食事摂取基準（2010年版）、その他、栄養調査に必要な参考書							
参考書	食品成分表、調理のためのベーシックデータ、各種料理の参考書、電卓							
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験を実施します。（定期試験90%、発表及びレポート課題10%）							
授業時間外の学習	基本的には実習時間内での作業となりますが、課題の進捗状況により自宅での学習も必要となります							
履修のポイント	授業に連続性があります。また、修得度に合わせた内容の変更もあるので欠席はしないこと。							
オフィス・アワー	担当教員の研究室前掲示板							

平成26年度 シラバス

科目名	管理栄養士給食演習Ⅱ		担当者	中山 優子	学科	栄養学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	臨床栄養学で学んだ疾病に関して、実際の症例検討や栄養ケアプラン、栄養補給などについて行い、管理栄養士としての基本的な技能実践力を身につける。さらに社会で活躍する管理栄養士として臨床現場で展開する栄養管理を実践するための応用演習。							
学習目的	実際の症例検討や栄養ケアプラン、栄養補給などについて行い、管理栄養士としての基本的な技能実践力を身につける。							
到達目標	臨床栄養領域のコメディカルスタッフとしてチーム医療に参画し、専門職としてそれぞれの施設での傷病者に対し、症例を通して適切な栄養管理や教育を実施するための総合的な栄養管理を理解し、実践することができる。							
授業計画								
回	主題		授業内容				備考	
第1回	臨床栄養管理 -1-		ガイダンス、臨床栄養管理の実際：医療施設の栄養管理システム1					
第2回	臨床栄養管理 -2-		臨床栄養管理の実際：医療施設の栄養管理システム2					
第3回	臨床栄養管理 -3-		臨床栄養管理の実際：医療施設の栄養管理システム3					
第4回	臨床栄養管理 -4-		栄養ケアマネジメント、薬と栄養・食物の相互作用					
第5回	臨床栄養管理 -5-		傷病者への食事療法、栄養補給の方法					
第6回	臨床栄養管理 -6-		代謝性疾患					
第7回	臨床栄養管理 -7-		消化器疾患					
第8回	臨床栄養管理 -8-		循環器疾患					
第9回	臨床栄養管理 -9-		腎臓・内分泌疾患					
第10回	臨床栄養管理 -10-		神経・呼吸器疾患					
第11回	臨床栄養管理 -11-		血液・筋骨格疾患、術前・術後					
第12回	臨床栄養管理 -12-		乳幼児・小児疾患、妊産婦・授乳婦の疾患					
第13回	臨床栄養管理 -13-		栄養補給法、チーム医療と栄養記録					
第14回	臨床栄養管理 -14-		外来での栄養管理と栄養教育、在宅での栄養管理と栄養教育					
第15回	まとめ		臨床栄養管理のまとめ					
教科書								
参考書	臨床栄養学分野の教科書 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表							
成績評価	単位認定 60 点以上 各疾患別小テスト60点以上、発表内容、レポート内容、テストなどで総合的に評価します。							
授業時間外の学習								
履修のポイント	授業内容に連続性があります。また、習得度に合わせた内容の変更もありますので欠席はしないこと。							
オフィス・アワー	11号館17研究室前に掲示します。							

平成26年度 シラバス

科目名	特別演習Ⅲ		担当者	旭 久美子・荒井 勝己		学科	栄養学科		開講期	前期	
区分	専門科目	選択	単位	1単位		学年	4学年		曜日		
		(選択)	(時間)	(30時間)					時限		
授業の概要	看護師・管理栄養士になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。										
学習目的	看護師・管理栄養士として必要な生物学の基礎の習得する。										
到達目標	生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて学ぶ。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につける。										
授業計画											
回	主題		授業内容						備考		
第1回	【応用栄養学】 授業の概要 栄養マネジメント		①国家試験の概要 ②栄養ケア・マネジメントの概念 ③栄養アセスメント						ガイドライン解説 第28回国家試験解説		
第2回	【応用栄養学】 妊娠期		①各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③妊婦・授乳婦のための食生活指針・食事バランスガイド								
第3回	【応用栄養学】 授乳期		①各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③妊婦・授乳婦のための食生活指針・食事バランスガイド								
第4回	【応用栄養学】 新生児期・乳児期 幼児期・学童期・思春期		①各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③授乳・離乳の支援ガイド・神経性食欲不振症診断基準								
第5回	【応用栄養学】 成人期		①各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③メタボリックシンドローム診断基準								
第6回	【応用栄養学】 高齢期		①各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③更年期障害・日常生活動作（ADL）・老年症候群								
第7回	【応用栄養学】 運動・スポーツと栄養 環境と栄養		①運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 ②運動と栄養ケア ③ストレスと栄養ケア ④特殊環境と栄養ケア								
第8回	【食品学】 人間と食品（食べ物） 食品の分類と食品の成分Ⅰ		①食分化と食生活 ②食生活と健康 ③食料と環境問題 ④食品成分表の理解						ガイドライン解説 第28回国家試験解説		
第9回	【食品学】 食品の分類と食品の成分Ⅱ		①植物性食品（加工を含む）								
第10回	【食品学】 食品の分類と食品の成分Ⅲ		①動物性食品（加工を含む） ②油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料 ③微生物利用食品								
第11回	【食品学】 食品の機能Ⅰ		①一次機能（たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル）								
第12回	【食品学】 食品の機能Ⅱ 食品の表示と規格基準Ⅰ		①二次機能（色素成分、呈味成分、香気成分、テクニファー） ②三次機能（消化管内で作用する機能） ③表示の種類								
第13回	【食品学】 食品の表示と規格基準Ⅱ		①健康や栄養に関する表示の制度 ②基準								
第14回	【食品学】 食品の生産・加工・保存・流通と栄養		①食料生産と栄養 ②食品加工と栄養、加工食品とその利用 ③食品流通・保存と栄養 ④器具と容器包装								
第15回	まとめ		応用栄養学・食品学のまとめ								
教科書	応用栄養学：応用栄養学（朝倉書店）、応用栄養学実習書（建帛社）、食事摂取基準（2010年度版） 食品学：新ガイドライン準拠エキスパート管理栄養士養成シリーズ 食べ物と健康1～3										
参考書	『管理栄養士 全科のまとめ 改訂3版』南山堂										
成績評価	単位認定 60 点以上 提出物評価・小テストなど 30% 、筆記試験 70%										
授業時間外の学習	予習：シラバスに従って、予め各講義内容に関してこれまでの知識を整理しておくこと。 復習：講義の内容を十分理解するとともに、管理栄養士国家試験に向けて再構築できるようにしておくこと。										
履修のポイント	管理栄養士国家試験受験に向け、講義・小テスト等の内容を各自ノートにまとめ、理解度を向上させる。										
オフィス・アワー	月・火・木 昼休みおよび5限目（旭） 月～金の休み時間（荒井）										

平成26年度 シラバス

科目名	特別演習Ⅳ		担当者	竹下登紀子/高橋東生	学科	栄養学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
	教養科目	(選択)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	本演習はチューター指導のもとに自主学習形式（出席義務あり）で学習を進め、任意で受講できる講義を並行開催する。講義科目は、「社会・環境と健康」、「公衆栄養学」の2分野及び応用力に重点を置くこととし、管理栄養士国家試験の受験対策としての集大成の科目である。							
学習目的	管理栄養士としての質の確保を目的とする。							
到達目標	管理栄養士として具備すべき知識を習得し、実践活動の即戦力となる統合とまとめを修得する。							
授業計画								
回	主題		授業内容				備考	
第1回	【社会・環境と健康】 1社会と健康 2環境と健康		1.A健康の概念 B公衆衛生の概念 C公衆衛生・予防医学の歴史 2.A生態系と人々の生活 B環境汚染と健康影響 C環境衛生					
第2回	【社会・環境と健康】3健康、疾病、行動に関わる統計資料 4健康状態・疾病の測定と評価		3.A保健統計 B人口動態統計 C人口動態統計 D生命表 E傷病統計 4.A疫学の方法 B疫学指標とバイアスの制御 C疫学の方法 Dスクリーニング					
第3回	【社会・環境と健康】 5生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策		5.A健康に関連する行動と社会 B身体活動、運動 C喫煙行動 D飲酒行動 E睡眠、休養、ストレス F歯科保健行動 6.Aがん B循環器疾患 C					
第4回	【社会・環境と健康】 7保健・医療・福祉の制度		7.A社会保障の概念 B保健・医療・福祉における行政のしくみ C医療制度 D福祉制度 E地域保健 F母子保健 G成人保健 H高齢者保健・介護 I産業保健 J学校保健 K国際保健					
第5回	【公衆栄養学】 1公衆栄養の概念 2健康・栄養問題の現状と課題		1.A公衆栄養の概念 B公衆栄養活動 2.A社会環境と健康・栄養問題 B健康状態の変化 C食事の変化					
第6回	【公衆栄養学】 3栄養政策		3.Aわが国の公衆栄養活動 B公衆栄養関連法規 Cわが国の管理栄養士・栄養士制度 D国民健康・栄養調査 E実施に関するツール F国の健康増進基本方針と地方計画 G諸外国の健康・栄養政策					
第7回	【公衆栄養学】 4栄養疫学 5公衆栄養マネジメント		4.A栄養疫学の概念 B暴露情報としての食事摂取量 C食事摂取量の測定方法 D食事摂取量の評価方法 5.A公衆栄養マネジメント B公衆栄養アセスメント C公衆栄養プログラム目標設定 D公衆栄養プログラム計画、					
第8回	【公衆栄養学】 6公衆栄養プログラムの展開		6.A地域特性に対応したプログラムの展開 B食環境づくりのためのプログラムの展開 C地域集団の特性別プログラムの展開					
第9回	応用力		まとめ1					
第10回	応用力		まとめ2					
第11回	応用力		まとめ3					
第12回	応用力		まとめ4					
第13回	応用力		まとめ5					
第14回	応用力		まとめ6					
第15回	応用力		まとめ7					
教科書	国民衛生の動向 2014/2015							
参考書	クエスチョン・バンク「管理栄養士国家試験問題解説」 他							
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験を実施します。(定期試験100%)							
授業時間外の学習	基本的には実習時間内での作業となりますが、課題の進捗状況により自宅での学習も必要となります。							
履修のポイント	管理栄養士国家試験受験に向け、講義・小テストなどの内容を各自ノートにまとめ、理解度を向上させる。							
オフィス・アワー	11号館研究室19に掲示します。							

平成26年度 シラバス

科目名	薬理学		担当者	高橋 淳子	学科	栄養学科	開講期	後期	
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日		
			(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	近年、高血圧症、糖尿病、痴呆症などの生活習慣病が大きな課題となっている。その様な中で、薬に対する基礎知識を十分身につけ、疾患の治療薬の作用機序に対する理解、実際に起こりやすい薬の配合禁忌、薬と食品との相互作用、薬理作用を持つ天然に存在する物質やサプリメントに含まれる生体機能物質のヒトへの影響を理解して管理栄養学の幅を広げる。								
学習目的	「医食同源」ともいわれる食生活は、ヒトの健康にとって重要な環境因子となる。また、「食」を通してヒトの健康に関わる管理栄養士にとっての薬と食品との関係を理解することが、この薬理学の講義からの学習目的である。								
到達目標	薬の基礎知識を十分に身につけることにより、管理栄養士として薬と食事の組み合わせについて専門的知識と技術を兼ね備えることができる能力を養うことを到達目標とする。								
授業計画									
回	主題	授業内容					備考		
第1回	薬理学とは	薬の分類、薬事法、薬理学の歴史							
第2回	薬理学総論 I	薬の作用のメカニズム (吸収、分布など)							
第3回	薬理学総論 II	薬の作用のメカニズム (薬理作用と受容体、主作用と副作用など)							
第4回	薬の設計	新薬開発、創薬、臨床試験、薬物療法の基本など							
第5回	疾患別薬物治療 I	中枢神経系、心臓・血管系疾患に作用する薬							
第6回	疾患別薬物治療 II	炎症と免疫系、骨の疾患、呼吸器疾患、消化器疾患に作用する薬							
第7回	疾患別薬物治療 III	内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患に作用する薬							
第8回	疾患別薬物治療 IV	腎臓疾患、感覚器の疾患に作用する薬							
第9回	疾患別薬物治療 V	感染症、悪性腫瘍(がん)に作用する薬							
第10回	臨床検査値と治療薬 I	臨床検査の種類、目的、検査内容、生体検査							
第11回	臨床検査値と治療薬 II	薬と食物相互作用							
第12回	栄養と代謝性疾患 I	肥満、糖尿病、低血糖、高脂血症、痛風							
第13回	栄養と代謝性疾患 II	先天性代謝異常、たんぱく質・エネルギー欠乏症、ビタミン欠乏症、ビタミン過剰症							
第14回	サプリメント	ダイエタリーサプリメントと健康							
第15回	薬理学のまとめ	薬理学分野の現状と問題点について 対応する管理栄養士の役割							
教科書	カラー図解 薬理学の基本がわかる辞典 久保鈴子 監修 西東社								
参考書	授業で適宜紹介する。								
成績評価	単位認定 60 点以上 小テスト40%、課題レポート60%で評価								
授業時間外の学習	予習として、次回授業の範囲の教科書を読み、復習は、教科書、配布資料を活用し講義ノートを整理する。								
履修のポイント	薬理学の基礎知識および食と薬の関係について理解することが望ましい。								
オフィス・アワー	曜日、時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3F第6研究室。								

平成26年度 シラバス

科目名	調理学実習Ⅲ		担当者	大石みどり	学科	栄養学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(45時間)			時限	
授業の概要	世界のグローバルな料理を学び、さまざまな材料、調理法を理解する。							
学習目的	今まで学習してきた調理を基礎として、料理の拡がりを学習し、社会に出たときの力とする。。							
到達目標	いろいろな種類の料理を知り、自分の料理の幅を広げられるようにする。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	イギリスの料理	アフタヌーンティーとは・・・スコーン、キュウリのサンドイッチなど						
第2回	韓国料理	ビビンバ、ワカメスープ、水キムチなど						
第3回	ベトナム料理	生春巻き、揚げ春巻き、フォーなど						
第4回	イタリア料理	アンテパスト パスタ料理 など						
第5回	中国料理	点心（生煎包など）						
第6回	フランス料理	鶏のワイン煮 シュークリーム						
第7回	アメリカ料理	ジャンバラヤ マフィンなど						
第8回	ロシア料理	ボルシチ ロシア紅茶など						
第9回	スペイン料理	パエリア スペイン風オムレツなど						
第10回	モロッコ料理	クスクスなど						
第11回	インド料理	カレー タンドリーチキンなど						
第12回	江戸時代の料理	いわし飯 あられ豆腐の汁など						
第13回	メキシコ料理	タコス アボガドデップなど						
第14回	タイ料理	トムヤムクン ナシゴレンなど						
第15回	ケーキと和菓子	チーズケーキ 薯蕷饅頭など						
教科書	テキスト毎回配布							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート 80% グループ討議 20%							
授業時間外の学習	毎回配布するテキストに記入して次回提出							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	健康スポーツ栄養学		担当者	旭 久美子	学科	栄養学科	開講期	後期
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	スポーツ選手の栄養管理について①～⑤を学ぶ。 ①スポーツ選手に必要な各栄養素の生理的作用について ②スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養素の補給量について ③スポーツ選手の食事について ④試合期と トレーニング期の食事について ⑤ケーススタディについて							
学習目的	スポーツ選手を対象とした栄養管理スキルを習得する。							
到達目標	スポーツ選手の栄養サポートが出来るようになる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ガイダンス	授業概要説明						
第2回	エネルギー補給①	トレーニングとエネルギー消費量						
第3回	エネルギー補給②	スポーツ選手の身体組成（種目別身体組成の特徴）とエネルギー						
第4回	エネルギー補給③	糖質、脂質、たんぱく質の補給量						
第5回	エネルギー補給④	ビタミン、ミネラルの補給量						
第6回	水分補給	スポーツドリンクのエネルギー及び栄養素量						
第7回	栄養補助食品	スポーツ時の栄養補助食品の利用						
第8回	スポーツ選手の食事①	種目別食事献立の基礎						
第9回	スポーツ選手の食事②	ランチョンマットを使用した献立						
第10回	スポーツ選手の食事③	食事のタイミング						
第11回	試合時の食事	試合前・当日・試合後の栄養管理						
第12回	ケーススタディ①	栄養サポート種目の特徴						
第13回	ケーススタディ②	栄養サポート計画案の作成						
第14回	ケーススタディ③	栄養サポート計画案の発表・評価						
第15回	まとめ							
教科書	プリントを配布							
参考書	コンディショニングのスポーツ栄養学（市村出版）、市民からアスリートまでのスポーツ栄養学							
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート提出100%							
授業時間外の学習	課題を行う。							
履修のポイント	各自学びたいことを明らかにして、授業に臨むこと。							
オフィス・アワー	月・火・木の昼休み							

平成26年度 シラバス

科目名	食事介護論		担当者	中山 優子	学科	栄養学科	開講期	前期
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	少子高齢化時代により地域在宅や施設における食介護の必要な要介護者の増加に伴い、その栄養状態の改善や体力の回復を通じ疾病の治療、治癒の促進に「食」が重要な役割を担っている。授業では、医療・福祉介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割について理解した上で、食事介助の意義を考える。「食」を通してQOL向上をめざすための理論と実際について学ぶ。							
学習目的	地域在宅や施設における食介護の必要とされる技術、栄養管理などに理解を深め、その技術や知識を実際の社会で役立てられる。							
到達目標	①摂食・嚥下障害について理解する。②摂食・嚥下障害に多い疾患について理解する。③介護食の形態とテクニチャーについて理解する。④食事介助のアセスメント、多職							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	食事介護 -1-		食事介護を必要とする人の背景					
第2回	食事介護 -2-		食事介護を必要とする人の疾病					
第3回	食事介護 -3-		食事介護を必要とする人のための食生活支援					
第4回	摂食・嚥下 -1-		摂食・嚥下障害について					
第5回	摂食・嚥下 -2-		疾病・症状別食事療法					
第6回	摂食・嚥下 -3-		疾病・症状別食事療法					
第7回	摂食・嚥下 -4-		嚥下障害の評価と対処方法					
第8回	摂食・嚥下 -5-		食環境と食事訓練					
第9回	食事介助 -1-		食事介助の方法、留意点、心得等について					
第10回	食事介助 -2-		嚥下困難になる原因、嚥下困難者におこる障害や症状					
第11回	食事介助 -3-		多職種連携の実際					
第12回	咀嚼困難		咀嚼困難、食事介護の実際					
第13回	食生活支援 -1-		食事介護の実際、食を通じて自立への援助					
第14回	食生活支援 -2-		在宅介護への支援、障害別の食生活援助					
第15回	まとめ		復習とまとめ					
教科書								
参考書	実践介護食事論、栄養食事療法、臨床栄養学、応用栄養学、摂食・嚥下リハビリテーション							
成績評価	単位認定 60 点以上 授業への参加度、実習態度、レポート・課題献立提出を総合して評価。							
授業時間外の学習								
履修のポイント	自ら学習目的意識を持って履修して下さい。							
オフィス・アワー	11号館17研究室前に掲示します。							

平成26年度 シラバス

科目名	フードコーディネート論		担当者	中村 裕子	学科	栄養学科	開講期	後期	
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	4学年	曜日		
			(時間)	(30時間)			時限		
授業の概要	フードコーディネートの基本理論―食の快適性の追求とサービス・もてなしの心を軸に、食文化、食環境、食卓マナー、テーブルセッティング、食育等、食に関する様々な分野の基礎的な知識について学習する。また、現代におけるフードビジネスの動向やこれからの資源循環型社会を十分に認識し、新しい時代のフードコーディネートの役割と価値についても学習する。 ・グループ討議・意見発表も実施する。								
学習目的	世界の食文化・食事情を理解し、おいしさの本質、食の持つホスピタリティやアメニティについて学び、様々な「食」をトータル的にとらえ、自己の考えを提案できる能力を養う。								
到達目標	食文化や伝統食を学習し、併せて現代社会の新しい食（フードビジネスにおける現代の流動的な食）の傾向も理解しフードコーディネートが食生活に果たしている役割と価値を習得する。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	フードコーディネートとは	アメニティとホスピタリティ							
第2回	日本の食事文化	伝統食・行事食							
第3回	外国の食事文化	諸外国の食事と日本							
第4回	現代の食事文化と課題	現代の食事分析とこれからの展開							
第5回	メニュープランニング 1	日本と諸外国の料理様式メニュー							
第6回	メニュープランニング 2	料理の選択と条件 献立計画							
第7回	食卓の演出 1	テーブルウェア							
第8回	食卓の演出 2	テーブルセッティング							
第9回	サービスとマナー	食卓のルールとマナー							
第10回	食空間とコーディネート	食空間のレイアウト							
第11回	キッチンレイアウト	環境の整備と安全について							
第12回	フードマネジメント	フードビジネスに関する事業の構造と展開							
第13回	食環境	これからの食環境とフードシステム							
第14回	フードコーディネートの新しい展開	ライフスタイルとの関係 (レポート準備)							
第15回	総括	まとめ フードコーディネートの課題と期待							
教科書	フードコーディネート論 建帛社								
参考書									
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート 80% グループ討議・発表 20%								
授業時間外の学習	世界と日本の食の連携を知る。メディアからの食情報に関心を持って自分の糧とする。情報の収集が大切。								
履修のポイント	流動的な現代の食情報に関心を持つこと。 世界各国の食の成り立ちと変遷を理解し、現代との結びつきを考えること								
オフィス・アワー	随時 9号館 第7研究室								

平成26年度 シラバス

科目名	道徳教育及び特別活動の研究		担当者	田口和人	学科	看護・栄養	開講期	前期
区分	教職科目 教職科目	自由 (必修)	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	4年次	曜日 時限	
授業の概要	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道徳教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。またビデオ等を見て学校現場についての理解を深めます。							
学習目的	教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道徳教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目的とします。							
到達目標	日本の道徳教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日の子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道徳教育・特別活動はどのようなものであるのかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	教育課程における道徳教育／特別活動	道徳教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。楽曲を聴いて子どもたちの心理を想像する。						
第2回	学校教育について	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。						
第3回	学習指導要領と道徳教育／特別活動	学習指導要領と道徳教育・特別活動について学習する。また、戦前戦後の道徳教育・特別活動について学習する。						
第4回	学校ってどんなところ？	今日の学校教育の現状について視聴覚教材を用いて学習する。						
第5回	いじめ問題	克服しがたい問題としての子どもたちの周りに存在する「いじめ・いじめ自殺」について視聴覚教材を用いて学習する。						
第6回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議①	テーマを設定してグループごとに討議を行う。						
第7回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議②	グループ討議した内容を整理して、発表する。						
第8回	まとめ	道徳教育と特別活動についてのまとめを行う。						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	※適宜、資料を配布します。							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 試験100%（持ち込み不可）							
授業時間外の学習	新聞等を通じて、教育に関する情報（例えば、いじめ問題）に目を通すようにしてください。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	教育相談論		担当者	占部償一	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期
	教職科目	自由	単位	2単位	学年	4学年	曜日	
区分	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	1, 2 回目の授業で、教育相談の必要性、定義、内容の包括性などを理解する。次に3 回目の授業にて、学校組織上の位置づけ等を理解する。さらに4, 5 回目の授業で、子ども理解を、成長段階、対人関係、教育段階を踏まえて深め、現代の子どもの変化と社会・文化環境の変化の概要を把握する。これらを基礎として、6～11 回目の授業を通して教育相談に必要な知識と方法を学んでいく。12～14 回目では、代表的な事例を通して教育相談の実際を体験・考察する。							
学習目的	教育相談に必要な知識を理解し、実際に実践する際の基礎を習得する。							
到達目標	①教育相談の必要性、定義、学校組織上の位置づけ等を理解する。 ②現代の子どもの成長段階や教育問題、社会的環境の変化について理解する。 ③教育相談を行うに必要な方法・内容を理解する。 ④事例を通して、教育相談を実践する基礎を習得する。							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	教育相談の必要性	児童生徒の抱える問題と教育相談の必要性						
第2回	教育相談の定義と内容	教育相談の定義、内容の包括性、機能の多様性						
第3回	教育相談と学校組織	学校組織における教育相談担当の分掌的位置づけと役割、全教員が学校生活全般を通じて行う教育相談、スクールカウンセラー等との連携						
第4回	教育相談と子ども理解(1)	成長段階と心理、身体、異性、対人関係。教育と到達度、自己評価、志向性。社会性の習得とアイデンティティ、自己実現						
第5回	教育相談と子ども理解(2)	子どもを取り囲む環境の変化。ポストモダン社会とメタ物語の喪失、私事化と公共性の喪失。グローバルネット社会						
第6回	教育相談方法(1)	教育相談への促しと気づき ①援助要請の重要性、②対応態勢(傾聴、承認、受容、当事者性理解)						
第7回	教育相談方法(2)	教育相談の方法 ①心理的感受と援助(肯定的自己観、内的統制と外的統制、自己注視等) ②援助思考(垂直保障、水平保障、問題解決保障)						
第8回	教育相談方法(3)	学習支援(動機付け、能力観の変換、発達の最近接領域理論、自己調整学習等)						
第9回	教育相談方法(4)	対人関係調整(傷つき感受性の緩和、自己愛と他者理解、文化的分化、仲間づくりと社会的スキル)						
第10回	教育相談方法(5)	志向と自己実現(時間軸と意味軸、内的興味と外的興味、生きがいと生活、夢・目標と方法等)						
第11回	教育相談方法(6)	連携 ①児童生、②教師間、③保護者、④専門機関						
第12回	教育相談の実際(1)	学習意欲の低下と成績不振(学ぶ意味の喪失、教育的呪縛、学習性無力感、知の受け身者と知の構成者、協働の学び)						
第13回	教育相談の実際(2)	対人関係といじめ(関係の確認、被害者の保護、加害者の特定と対応、生徒指導・学級担任等との連携、他生徒への対応、相談の継続等)						
第14回	教育相談の実際(3)	不登校と無気力(理解と受容、背景要因の確認、症状の段階確認、カウンセラー、学級担任等との連携 援助の形態と方法の模索等)						
第15回	まとめ	承認者・支援者の重要性 ①可能性の展開、②自己認知と社会性の拡大、③肯定的意欲の賦活						
教科書	使用せず							
参考書	河村 茂雄著 『教育相談の理論と実際—よりよい教育実践をめざして』 図書文化社							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 80%、小レポート10%、課題10%で評価する。							
授業時間外の学習								
履修のポイント	教職に必要な資質を深め、向上させようとする意欲と努力が大切です。							
オフィス・アワー	アポイントを取ってください。							

平成26年度 シラバス

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		担当者	澤田樹美・田口和人		学科	栄養学科		開講期	後期	
区分	教職科目	自由	単位	2単位		学年	4学年		曜日		
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)					時限		
授業の概要	第1回は、教職担当教員によりオリエンテーションを行う。第2～3回は、栄養教育実習を振り返りながら、教師という仕事について考える。第4～6回は栄養教育実習での経験を踏まえ、学校給食（調理場）についての学習を深めることにより、栄養教諭としての資質向上に努める。第7～10回では、教師に求められる様々な指導力を伸ばすために、道徳、生徒指導、総合的な学習の時間、特別活動の指導を前提として、児童生徒に対する洞察力・観察力そして創造力を高めるために心理的討論や心理活動を意識したアクティビティを行う。第11～13回は栄養教育実習の研究授業を踏まえ、栄養教諭の指導的側面の向上を図る。第14～15回は、学校教育が抱える諸問題をふまえながら教師の役割について考え、最後に教職課程履修に関するまとめを行う。										
学習目的	履修カルテにより、個人別の履修状況や教諭になるための実践的指導力等を把握しながら、演習を通して受講者が栄養教諭になるために必要な能力を培うことを目的とする。また、組織の一員としての自覚や地域社会とのつながりを意識しながら（地産地消）、社会性や人間関係能力を育成する。										
到達目標	①履修カルテにより、履修状況を確認する。 ②栄養教諭になるために必要な能力を、身につける。 ③学校という組織の一員として自覚するとともに、教師としての豊かな感性や人間関係能力を高める。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容						備 考		
第1回	オリエンテーション		教職実践演習の内容とスケジュールの確認。履修カルテの確認。						教職担当教員		
第2回	学校教育・教師の仕事		教育実習を踏まえて、教師の仕事について学び、考える						同上		
第3回	教育課程		学習指導要領と教育課程について再度確認する。						同上		
第4回	学校給食の実際		自校方式とセンター方式の様子について内部講師から学ぶ						同上		
第5回	学校給食を巡る諸問題の検討		「朝食欠食」や「完食」など学校給食を巡る諸問題についてのディスカッションを行う。						同上		
第6回	献立発表		教育実習で経験した「献立」について、各自が発表する。						同上		
第7回	集団的アクティビティ		子どもたちの人間関係の不安定な状況を想定して、集団的なアクティビティを行う						同上		
第8回	いじめ問題を考える		学校全体の問題として「いじめ」をとらえ、改めて考える。						同上		
第9回	ブレイン・ストーミング		ブレイン・ストーミングのウォーミング・アップ段階とマインド・マップづくりを行い、対人関係の緩和と創造力、批判的思考力などを開発する教育方法を知る。						同上		
第10回	同 上		動機づけや意欲形成に対するマインド・マップづくりを行い、具体的な教育的支援策を案出し合って発表する。						同上		
第11回	食に関する指導計画		全学年を対象とした食に関する指導計画の作成						栄養教諭担当		
第12回	給食・教科等の時間における授業①		給食の場を利用した食育						同上		
第13回	給食・教科等の時間における授業②		給食・教科等の指導案						同上		
第14回	学校教育の諸問題		栄養教諭の専門的分野にとどまらず、学校教育が抱える諸問題について考える。						教職担当教員		
第15回	まとめ		履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。						同上		
教科書	プリント類をその都度配布する										
参考書											
成績評価	単位認定 60 点以上 小レポート、総括レポートの提出状況、演習・発表内容を総合して評価										
授業時間外の学習	新聞等を通じて、教育に関する情報（例えば、食育・いじめ問題など）に目を通すようにしてください。										
履修のポイント	各自が自分の考えを積極的に発表し、共に学びあい、考える場にしてください。										
オフィス・アワー											

平成26年度 シラバス

科目名	栄養教育実習		担当者	田口和人	学科	栄養学科	開講期		
区分	教職科目	自由	単位 (時間)	1単位 (45時間)	学年	4学年	曜日		
	教職科目	(必修)					時限		
授業の概要	教育実習引受校の指導もと、さまざまな教育現場の実際を経験する。研究授業を行わせていただく。子どもたちとの関わりを経験し、子どもたちとのコミュニケーションを経験する。(※教育実習引受校の指導に従う。)								
学習目的	教育実習は教員免許を取得するための必修科目である。各自が出身中学校あるいはそれ以外の学校で、1週間の実習を行なう。大学の授業だけでは得られない教師としての技術や知識を集中的に習得すると同時に、実際の教育現場で教師という立場で多くの経験を積むことを目的とする。								
到達目標	(※教育実習引受校の指導に従う。)								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備考		
第1回	}								
第2回									
第3回									
第4回		それぞれの教育実習引受校で1週間行う。							
第5回									
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	使用せず								
参考書									
成績評価	単位認定 60 点以上 ※実習校の成績評価に沿って評価等								
授業時間外の学習									
履修のポイント									
オフィス・アワー									

平成26年度 シラバス

科目名	教育実習事前事後指導		担当者	田口和人 鈴木恵美	学科	栄養学科	開講期	前期	
区分	教職科目	選択	単位	1単位	学年	4学年	曜日		
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限		
授業の概要	○事前指導では、教育実習に際して求められる基礎的・基本的な事項を身につける。 ○実習を前提に、学校教育についての幅広い理解を再度行う。								
学習目的	○自信を持って実習に臨み、その成果をより実り豊かなものとするを目的とする。								
到達目標	1. 学校と学校教育について理解する。 2. 児童・生徒、保護者と豊かなコミュニケーションを構築することができる。 3. 「食に関する指導」の授業を1人でできるようになる。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容					備 考		
第1回	教育実習に向けて(Ⅰ)	栄養教諭の実際 (P. Pにて栄養教諭について説明)							
第2回	教育実習に向けて(Ⅱ)	実習の手引き・実習ノート・自主課題の設定							
第3回	給食時の指導案の作り方	給食時の指導案の作成方法を知り演習をする							
第4回	学活の指導案の作り方	1校時で完結する内容で指導案を作成し、演習する							
第5回	学校という組織・職場	学校がどのような組織として構成されているかを理解する							
第6回	教師の仕事と子どもたち	教師の1日、1週間、1年について理解し、子どもたちの成長・発達をイメージする。							
第7回	栄養教育実習報告会(Ⅰ)	栄養教育実習についての報告を行う。							
第8回	栄養教育実習報告会(Ⅱ)	栄養教育実習についての報告を行う。							
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	使用せず								
参考書									
成績評価	単位認定 60点以上 単位認定 60点以上 レポート80% 演習20%で評価 再試験は実施ないが実習校の評価は取り入れる								
授業時間外の学習	新聞等を通じて、学校や教育に関する情報(例えば、食育・いじめ問題)に目を通すようにしてください。								
履修のポイント									
オフィス・アワー									